会報 安曇野教育

第５９号

発行所　安曇野市教育会　　発行日　平成 30 年 6 月 29 日
発行人　細　萱　稔　　題　字　川　田　　殖
編　集　会報委員会

人と人との つながりを大切に

会長　細萱　稔

創立から百三十年目の安曇野市教育会がスタートしました。去る五月十九日（土）には、創立百三十周年記念の総集会が豊科公民館ホールで開かれました。多くの会員の皆さんにご参集いただき、ありがとうございました。

今回の記念事業として、教育会が所有する荻原碌山作の「坑夫」と「女の胴」の二体の石膏像をブロンズ像にしました。これで、創立百二十周年記念事業でブロンズ化した「女」とあわせて三体の石膏像をブロンズ像にすることができました。ブロンズ化にあたっては、碌山美術館に監修していただきましたが、その碌山美術館の設立には、当時の南安曇教育会が大きく関わりました。そこで、今年の「安曇野の先人等に学ぶ会」では、郷土の先人として荻原碌山を取り上げ、碌山美術館の学芸員さんに講演をしていただきました。このように、教育会創立百三十周年を、総集会の時だけでなく、様々な事業にあわせて取り上げていきたいと考えています。

さて、今年の総集会では、国立天文台天文情報センター准教授の縣秀彦先生に「安曇野発一三八億光年宇宙の旅　～つながっている宇宙・社会・いのち～」という題でご講演をしていただきました。Mitaka（みたか）というソフトを使ってのお話は、本当に宇宙を旅しているようでしたが、最後の「人と人とのつながり」「文化の伝承」というお話が心に残りました。

私たちの教育会は、明治二十一年の創立以来、人と人とのつながりを大切にしながら、安曇野の子どもたちのために事業を行ってきました。それと共に、地域素材の発掘のために自然・歴史・人物などの研究を進め、それを伝承する仕事も進めてきました。

創立百三十周年という節目を迎え、次への新たな一歩が始まります。これからも、先輩から受け継いだものを大事にしながら、人と人とのつながりを大切にし、次代へ伝承できる教育会を共につくっていきましょう。

平成３０年度安曇野市教育会役員・会務の分担

役　職	氏　名	所　属	会　務　分　担
会長（代表理事）	細萱　稔	豊科東小	会務統括　【教育課題委員会担当】
理　事	丸山　福一	事務局	会務全般
理　事	宮澤　純子		会務全般
監　事	中村　真市	穂高東中	
監　事	伊藤　和子		
常任委員長	古幡　栄一	明科中	会務全般
常任副委員長	坂槙　邦章	堀金小	会務全般　【会誌編集委員会担当】
常任委員	曽根原　弘	三郷小	調査研究　【人権教育委員会担当】
常任委員	早川　正美	明南小	調査研究　【人物読み物委員会担当】
常任委員	窪田　博之	穂高西中	講習行事　【キャリア教育委員会担当】
常任委員	長瀬　克彦	明北小	講習行事　【図書館教育委員会担当】
常任委員	小林　栄子	穂高西小	広報　郷土文化財センター【郷土文化財センター運営委員会担当】
幹　事	堀金　猛	穂高西小	会務全般　【展覧会運営委員会担当】
幹　事	馬淵　勝己	三郷小	調査研究　【社会科資料集編集委員会担当】
幹　事	小平　伴紀	明科中	調査研究　【環境教育委員会担当】
幹　事	沓掛　隆	豊科南中	講習行事　【木村素衛委員会担当】
幹　事	竹内　幸浩	穂高北小	講習行事　【情報委員会担当】
幹　事	河合　ちほえ	明北小	広報　郷土文化財センター【会報委員会担当】
事務局長	丸山　福一	事務局	
事務職員（嘱託）	鶴田　富男	事務局	
議　長	丸山　浩芳	堀金中	
議　長	山本　美江	豊科東小	
信濃教育会常任委員	細萱　稔	豊科東小	
信濃教育会代議員	古幡　栄一	明科中	
信濃教育会代議員	坂槙　邦章	堀金小	

平成三十年度 教育会総集会開かれる

平成三十年度安曇野市教育会総集会が、五月十九日（土）二時三十分より、豊科公民館大ホールにて開催された。

音楽同好会の先生方による「With You Smile」の素晴らしい混声合唱で幕を開け、市制十周年を記念して一昨年に作られた安曇野市歌「水と緑と光の郷」を引き続き全員で斉唱した。

細萱稔会長は挨拶の中で、安曇野市教育会が、南安曇教育会から数えて本年度で百三十周年の節目を迎えたこと、そしてその記念行事として荻原碌山作の二体のブロンズ像を作製したことを話した。

定款に基づいて組織された本年度役員紹介の後、「この総集会が、安曇野の子どもたちのために自分自身を高めようという強い気持ちで参加した先生方にとって、教職員としての専門性を高める貴重な機会となることを心から願う」と結んだ。続いて、信濃教育会会長後藤正幸様代理北沢秀雄様、安曇野市教育委員会教育長橋渡勝也様からお祝いの言葉をいただいた。

開会行事に続いて、人物読み物委員会山本美江先生による研究発表と、「安曇野発　一三八億光年宇宙の旅～つながっている宇宙・社会・いのち～」国立天文台天文情報センター准教授／普及室長の縣秀彦先生の講演会が行われた。

～会員研究発表～

安曇野の偉人　務台理作先生

人物読み物委員会　先生（豊科東小）

務台理作先生は、三郷村野沢に生まれ、二十五歳で京都帝国大学に入学。大学院も含めて十一年間西田幾多郎のもと哲学を学び、西田哲学の第一人者として活躍した。

三郷小・中学校をはじめ、安曇野市内の多くの小中学校の校歌の作詞を手がけている。

少年期には、赤松の大森林、通称「お林」と呼ばれる林の中で遊び、豊かな自然体験ができた。日記には、農作業や自然が大好きな少年の姿とともに、戦争に対する問いも書かれていた。日露戦争が起こり勝利にわき上がる中、世の中の風潮に流されることなく、幼い中にも戦死者を悼む心、戦争を拒否する哲学を持っていたことが伺える。

戦後は教育行政にかかわり、戦後の教育改革を推進した。吉田茂首相直々に教育刷新委員会委員に指名され、教育基本法の制定、義務教育九年とした現在の六・三制などを打ち出した。

特に教育基本法の制定では、教育勅語擁護派と対立しながらも、平和と民主主義を根幹に据えている新憲法の精神にかなう教育基本法にしていくために、教育における個人の尊厳に最もこだわり、国家による教育統制を強く拒んだ。教育基本法前文はこうした思いが集約された文面となった。

さらに教え子の自殺から、権力主義や帝国主義に立ち向かうことをしなかった自分を責め、権力と戦いうるヒューマニズムの保持者になろうと決意した。著書を発表する傍ら、六十年安保条約締結反対やベトナム戦争反戦運動などの最前列にたって論陣を張り平和運動に取り組んだ。

務台先生の考えのもとは幼児期に過ごしたふるさとの中にある。また、教育会館の南庭にある直筆の碑「荒野にありても 人間の行く道はあるなり」は、時代や歴史を厳しく見つめ自分の道を進んできた、務台先生の生涯の歩みの言葉でもあるように思う。

山本先生から学んだこと

（豊科南小）

真理を貫いた理作先生の生涯や考えの質を　先生から学んだ私は、その発表から得た感謝を伝えようと、理作先生の生家へ報告に行った。生家のご主人は大喜びされ、理作先生が生前話されたことを聞き取ったという古い書簡を見せてくださった。その一部である。

「一つの哲学の性格を掴もうとする点には、現実の問題に対する見方と見方と解決の姿勢とその思想方法の三点。人間が人間らしく生きることが、次第に困難になってきた時代。

人間が物件として取り扱われて、ともすれば人間的なものが、非人間的なものや反人間的なものに置き換えられがちな時代。こうなると、人間否定とか人間疎外に…。人間の問題で一番大事なものは、人間の幸福。幸福を少しでも大きくして、多くの人々がこれを分け合うことが大切ではないか。

人間的なものを非人間的なものや反人間的なものから守らねばならない。この精神をヒューマニズムという」

先生の一途な研究のお陰で私は深く学ぶことができたし、生家の方々も嬉しさを共有できたことで、私も少しずつ学んでいこうと改めて感じた。「哲学に老年というものはない。目が開かれたそこから、新しい歩みが始まる」。これも、　先生から学んだ思いだ。

～講演　概要～

安曇野発
一三八億光年宇宙の旅
～つながっている宇宙・社会・いのち～

国立天文台天文情報センター
准教授／普及室長
縣　秀彦　先生

星を研究することは、世の中と全くかけ離れたことではない。ポール・ゴーギャンがタヒチを描いた有名な絵のタイトルに、「我々は何処から来たのか、我々は何者か、我々は何処へ行くのか」というものがあるが、まさに天文学はこのような根源的な謎を今解き明かそうとしている。これがわかれば、人間の生き方、考え方、社会の進むべき道の手がかりになるに違いないのである。

すばる望遠鏡が撮影した、一〇五四年（平安時代）に超新星爆発した星の最期（残骸）の写真がある。太陽よりもずっと重い星は爆発し、そのガスとチリが再び集まって塊となり、惑星とともに新しい星が誕生する。

いっぽう、太陽は軽い星であり、超新星爆発はしない。太陽の最期はまず、ぷよぷよと体を膨らませて広がり、そして残り火を燃やし、中心が種のように白く小さな星（白色矮星）となる。星の終わりは、新しい星の誕生なのである。

現に、百三十八億年前、ビッグバンで宇宙が誕生し、何回もの超新星爆発を経て、四十六億年前に太陽と地球が生まれたのである。そして、私たちも同じ太陽系の中で生まれてきたのであり、元素のレベルで考えると、私たちはまさに「星の子ども」たち、宇宙とつながっているのである。

私たちの太陽系は、「天の川」と呼ばれる星の大集団に在る。そして、私たちが肉眼で見ることができるいちばん遠い天体が「アンドロメダ銀河」である。星座の姿でいうと、アンドロメダ姫の腰元に、米粒大にボウッと光って見える。そこから光子が二百三十万年間宇宙を旅して、今日、皆さんの目に入るのである。この光は、私たち祖先の壮大な旅を思い起こさせるだろう。

二百三十万年間を遡ると、人類七十三億人の共通の祖先が、木の上の生活からアフリカの大地を二足歩行し始めた頃であろう。人類の細胞六十兆個の多くに、その当時の記憶が残っている。自分と周囲の人との遺伝子の違いは〇・一％程度で殆ど同じ。チンパンジーと人類も九八・四％同じ。私たちは共通の父母の遺伝子を受け継いでいるのである。アンドロメダ銀河を見て、人類は同じ共通の先祖を持つ存在であることを思い出してほしい。

宇宙が誕生した百三十八億年を一年の暦に例えてみる。一月一日がビッグバン、二月十四日バレンタインに天の川銀河が生まれ、八月三十一日、四十六億年前に地球が誕生、九月下旬、地球に生命が誕生。十二月二十六、二十七日頃恐竜が歩く。十二月三十一日午後八時頃、人類がようやく出現、それからわずか四時間で今日、この時である。

私たちが九十歳まで生きてもそれは〇・二秒世の中を知った程度に過ぎないのである。それなのに、悠久、広大な宇宙を、この僅かな時間で百三十八億年近くまで見通し解明してきた人類の偉大さ。家、学校、そして地域における伝承があってこそ、それを学び知ることができる。お互いに文化・文明・宇宙・自然の姿を伝承することで私たちはつながっている。この社会の中で、社会とともに歩む私たちなのである。さあ、ともに歩んでいこうではないか。

＊「Mitaka（みたか）」の観測データに基づいた、宇宙旅行が可能な無料ソフトウェア公開中
http://4d2u.nao.ac.jp/html/program/mitaka

天文学者懸先生の講演をお聴きして
（豊科南中）

「九十分間の宇宙旅行に行ってきました」。天文学者の懸先生の講演を聴き、まず始めに感じたことです。先生の機知に富んだお話しぶりと、仮想宇宙空間シュミレーションソフトの Mitaka（みたか）で（東京都三鷹市のキャンパスでこのソフトが作られたことからその名が付いたという話も、とても素敵でした）、安曇野市の公民館の椅子に座っていた私は、あっという間に土星の環を間近で見ることとなり、さらには、アンドロメダ銀河にまで行くことができました。

しかし、今回の講演は「星の話」だけではありませんでした。そもそも、天文とは、天からの文（ふみ）を読み解くものである、そして今は、大きな転換期を迎え、私たちが文を天に届けようとしている、とのことでした。つまり、私たちは天と繋がっているというのです。

私は、よく生徒たちに、「物事を俯瞰してみると、同じものでも、別の見え方ができるよ」と話しています。縣先生も、「宇宙レベルでものを見ることで、我々は長いスケールでものを考え、ともに歩んで行くことができる」と天からのメッセージを伝え、結んでくださいました。

各種委員会年間活動計画

子どもを育て教師を育てる各種委員会活動

担当常任委員　曽根原　弘

将来を担う安曇野の子どもに、課題解決に向け、仲間と協力し、自ら考え、行動して、新しい価値を獲得・創造していける力をつけてほしいと願っています。

それには、まず子どもの前に立つ教師が、子どもにつけたい力を自ら身につける研修を積み重ねていかなければならないと考えます。教師としての自分を絶えず磨いていかないと、生きる力や意欲を身につけた子どもを育てられなくなります。教師の力量や職能を向上させる目的の各種委員会の活動は、その意味で安曇野市教育会の公益目的事業の最も大事な活動の一つです。

今年度、調査研究委員会、特別委員会、広報委員会の三種類からなる十三の委員会の活動が、七十四名の委員の先生方により、力強くスタートしました。同じ課題意識をもち、共に力を合わせて、各種委員会の活動が、職場にも広がり、安曇野の子どもたちに還っていくことを期待しています。

◎委員長○副委員長
・委員
▽研究テーマ　▼内容

調査研究委員会

教育課題委員会

「安曇野市体力向上推進委員会」としても活動

▽①安曇野市の子どもの健康や体力・運動能力の現状を理解し課題と原因を考える。
②健康・体力・運動能力の向上や生活習慣改善のための具体的方法を検討し提言する。
③幼保小中連携プログラムの実践を行い、安曇野市全体に広げる。

▼①生活習慣・運動環境・保健体育授業の実態と改善・充実。
②体幹トレーニングやコーディネーショントレーニングの実践と普及。

人権教育委員会

▽豊かな人権感覚を育てるための指導のあり方。

▼①各学校で行われる人権教育の実践を集め、人権教育実践資料集に資料を追加して、内容を充実させる。
②小中学校のつながりを考慮に入れ、追加資料の内容を検討していく。
③各学校で行われている人権教育についてのアンケートを実施し、人権教育強調月間等で扱う内容や資料、講演会についての情報を集め、まとめる。

図書館教育委員会

▽学習・情報センターとしての機能を果たす図書館において、図書館資料を使っての学習活動の充実を図るための担任、司書教諭、図書館司書の連携のあり方について考える。

▼①図書館資料を使っての学習活動の実践や取り組みについて研究し紹介する。
②各校の司書教諭・図書館教育係
・図書館司書、公共図書館司書の先生方との研究協議会を開催し、授業を提案して、各校や先生方との連携を図る。

環境教育委員会

▽環境に配慮する行動の促進と環境問題に対する理解を深めることを目指す環境教育のあり方。

内容
①安曇野環境フェアの環境活動発表会やブース展示に出展し、環境活動の輪が広がるように努める。
②安曇野市内の各校での環境教育に関わる授業実践や取り組みについて研究し、実践事例などを紹介していく。
③昨年度から各校で実施されているエコアクション21への取り組みについて研究し、持続可能なサイクルの確立に向けて、反省や改善点を整理していく。

特別委員会

社会科資料集編集委員会

▽安曇野市の子どもたちが、自分たちの住んでいる地域を体験的に学習できる社会科資料集を編集する。

▼①昨年度に引き続き、生活の基盤「複合扇状地」の土地利用と人々の営みについて研修し学習に活用できる安曇野巡検の実施。
②来年度版資料集作成に向けてデータの更新、資料収集、写真撮影。写真を多用し子ども達が身近に感じ、活用しやすい資料集作成。
③社会科学習に生かせる資料や情報の提供。

キャリア教育委員会

▽安曇野におけるキャリア教育の現状と展望
～望ましいキャリア教育の進め方と指導方法のあり方を探る～

▼①「進路指導資料集」の内容検討、改訂版作成、頒布。
②各学校のキャリア教育の実際について調査活動を行い、課題について検討していく。また、キャリア教育の四つの視点をもとにした授業実践の分

析と考察を行い、キャリア教育の成果と今後の課題を明らかにしていく。

人物読み物委員会

◎六井直樹　○平瀬和子
・髙木瑤之　・山本美江
・征矢野安政　・武田純志

▽安曇野の偉人（人物）について調査研究し、児童生徒への教材化を視野に入れながらその業績をまとめる。

▼郷土の先人たちの業績やエピソードを調査研究し、安曇野市教育会のホームページ「安曇野の偉人」に掲載する。

・藤森渓谷　・藤森秀夫
・中島輪兵衛　・山口蒼輪
・青木祥二郎　・山本安曇

らについて調査研究を進め、郷土史研究を専門とする講師の先生にご指導いただきながら資料を作成する。

木村素衛委員会

◎村山公一　○古澤万喜美
・江頭　務　・新村邦子
・降旗　綾　・橋詰　恩
・望月翔太　・月岡優介

▽木村先生の日記等遺稿文献の整理・研究を通して、安曇野市教育の拠り所である木村先生の徳を追慕し、その生き方を学ぶ。

▼①多くの一般会員に木村先生の教育愛にふれてもらえるように、先生の日記№44を現代仮名遣いに書き換え、資料として保存していく。

②「安曇野の先人等に学ぶ会」や会報・ホームページ等で木村先生の日記について読み合わせや紹介を行い、木村先生の徳を伝えていく。

郷土文化財センター運営委員会

◎山科亮太　○上嶋和三
・藤松慎一郎　・矢花陸崇

▽センター内の所蔵品の維持管理を進める。本年度はリーフレットの改訂→印刷→配布まで進める。また、教育会の諸行事に併せて常設展示の工夫をすると共に、会報を通して広報活動を行う。

▼①新任者歓迎研修会や安曇野の先人等に学ぶ会、哲学講座に併せ、センター開放日を設定。展示を工夫し、多くの会員が見学できるようにする。

②センター内の所蔵品等について、会報の「郷土の文化財」コーナーで紹介する。

展覧会運営委員会

◎上條睦美　○高橋恵実子
・堀田美奈　・本田浩一
・西村頼子　・牛山美和子
・原美穂子　・山田　忍
・渡邊香苗　・山﨑　威

▽科学展・書道展・図工美術展・ものづくり展を開催し、市内の児童・生徒の自然事象への興味関心を高めるとともに、表現・製作活動への意欲高揚を図る。

▼同好会と連携しながら、教育会主催の四大展覧会の作品募集と審査、展示を企画運営する。入選者には賞状を授与する。

広報委員会

会誌委員会

◎内山一好　○髙木仁志
・小出由希子　・塩崎さおり
・本郷大輔　・宮坂めぐみ

▽安曇野市教育会の会誌「安曇野教育」第十三号を発行し、会員の教育実践や研修内容を会員や地域の方に知っていただく。

▼会員の「教育実践」「研究実践」「心に残る一言」「青年教師の主張」などの他、本教育会独自の「巻頭座談会」やシリーズ「先輩こんにちは」「安曇野遺産」、県外視察の報告「視察紀行」などを掲載する計画である。

現在は、原稿の執筆依頼の段階に入っており、発刊は例年通り二月末を予定している。

会報委員会

◎青柳史子　○平井茂孝
・荒井愛香　・今溝晶子
・上田美英子

▽会報『安曇野教育』の編集・発行を行う。本教育会の行事や事業内容、各種委員会の様子や同好会の様子について掲載し、機関紙としての使命を果たす。

▼会報五十九号から六十二号の発行（六月、九月、十二月、三月の予定）。また、必要に応じて速報を発行する予定。

情報委員会

◎卯之原利幸　○宮澤岳夫
・五十嵐誠治　・松永泰幸

▽安曇野市教育会に関する情報提供のサポート

▼①安曇野市教育会ホームページの更新作業。

・会報の公開（個人情報の削除と校正）
・人物読み物委員会の資料公開
・基本データその他の加除修正
・情報教育に関する資料の紹介や更新。

②安曇野市内各小中学校のホームページチェックやネットパトロール。

③情報モラル教育の推進啓蒙。

東西南北　お手本

五月に行われた「安曇野市教育会初任者歓迎研修会」。閉会前の初任者代表挨拶を私が勤務する学校のS先生が行った。挨拶の内容そして発表する姿はとてもすばらしかった。

研修会閉会後、何人もの方から「すばらしい挨拶だったね」とか「校長先生が指導したの？」と声をかけられた。私は全く指導も助言もしていなかったので、教頭先生が指導したのだろうと思っていた。ところが、教頭先生も関わっていなかった。S先生に聞くと「自分で考えました」とのこと。

三十数年前、初任者だった私にS先生のような挨拶ができただろうか。私には絶対できなかっただろう。挨拶する機会が増えた今の私も、S先生のようにはできていない。

今、私の手元にS先生の原稿の写しがある。来年度の初任者歓迎研修会のために、という名目でいただいたのだが、今後私が行う挨拶を考える際のお手本とさせていただこうと思っている。

長瀬克彦（明北小）

初任者歓迎研修会

安曇野市に新たに赴任された先生方を対象にして、初任者歓迎研修会が五月二十八日、南安曇教育文化会館で開かれた。

会に先立って、館内にある郷土文化財センターと視聴覚教育協会を見学し、百三十周年を迎えた教育会に所蔵されている多くの収蔵物や視聴覚教材について、担当の方から説明を受けた。

研修会では、まず主催者、初任者の順に自己紹介を行い、初任者は出身やこの二ヶ月の感想等を話した。そして、細萱稔会長が、「百三十年目の教育会で一緒に学んでいけるよう、この会を互いに知り合い、お互いに繋ぎ合っていくきっかけの会にしてほしい」と挨拶した。続いて安曇野市教育委員会を代表して會田義昭教育指導室長、信濃教育会を代表して後藤正幸会長が、それぞれ温かい励ましの言葉で挨拶された。

その後、三人の先輩会員が、歓迎の言葉として自らの実践や体験から学んだことを話した。

先生（豊科南小）は自らのこれまでの赴任校で学んだこと、素敵な先生方や子どもたちとの出会いを振り返り、「若さを武器に、周りの先生方の実践に学びそれを生かしていくこと、どんどん出かけて学ぶこと、ここでの頑張りが今後の自分のためになる」と話した。

先生（明科中）は、「思考力・判断力を育む楽しい家庭科―家庭科教師としてできること、していきたいこと」と題して、学んだことを生活に生かそうとする姿を目指しての実践を紹介し、「教えたことですぐに答えはでなくても、いつか力になれたらいい」と話した。

先生（穂高南小）は、自らの一日を写真を交え紹介しながら「目で見て何をやるかわかるように」「子どもの様子をメモに残す」など日々心がけていることを話し、「愚痴を聞いたり一緒に考えたりしてくれる先生方がいるから、一人で抱え込まずに話してみるといい」と結んだ。

最後に初任者を代表し先生（明北小）が、多くの先輩から激励の言葉をかけてもらったことに感謝を述べ、「やりがいをもち充実した毎日を送れることに感謝し、誠実に学び続ける気持ちを忘れず励んでいきたい」と決意を述べた。

初任者の先生方の紹介　敬称略

初任者歓迎研修会に参加して

（明北小）

豊かな水と緑に恵まれた安曇野市にて、養護教諭としての第一歩を踏み出してから、早くも二か月が経過しました。入学式にて、きらきらとした眼差しの子どもたちに、

先生、と呼ばれた時の、少しくすぐったい気持ちと感動を、昨日のことのように思い出します。

新学期が始まるこの時期の保健室は、毎日が慌ただしく過ぎていきます。その中で、子どもたち一人ひとりと向き合えているか、言葉がけや手当ては適切であったか等、常に自分自身に問いかけながら毎日を過ごしています。うまくいかないこともありますが、周りの先生方や子どもたちの支えのお陰で、毎日が充実しています。

初任者歓迎研修会では、先輩方や同じ初任者の先生方のお話をお聞きし、今までの自分を振り返るとともに、明日からまた頑張ろうという活力をいただきました。今回学ばせていただいた、周りの方々への感謝の気持ちを忘れないこと、子どもたちと共に学び続ける姿勢を大切にしながら、今後も自己研鑽に励んで参ります。

郷土文化財39
「郷土文化財センターの蔵書①」

郷土文化財センターの中には、書庫があります。これまで購入してきた書籍や寄贈していただいた書籍等、本棚いっぱいに収蔵されています。今年度は、書庫に保管されている書籍を紹介します。郷土に関わる資料を探したいというとき、ぜひ、センターを活用して下さい。

第一回は、「雑誌信濃教育」です。復刻版ではありますが、明治十九年に創刊された第一号から収蔵されています。長野県の教育の歴史を知ることができる貴重な雑誌です。ぜひ一度手にとってみてはいかがでしょうか。

（郷土文化財センター運営委員会）

編集後記

今年度最初の会報をお届けします。今後も機関紙として、教育会の活動の様子をお伝えしていきたいと思います。